

2020. 5. 24

畑 啓之

「理研スーパーコンピュータは「京」から「富岳」へ」 前倒し運用開始

新型コロナウイルスの感染拡大が、富岳の稼働開始時期を早める。部分的な利用になるとい
えども、予定より約1年早い運用開始である。京の100倍の能力を有するとのことである
ので、その成果に期待している。

新型コロナウイルス対策を目的としたスーパーコンピュータ「富岳」の優先的な試行的利用
について 理化学研究所 2020年4月7日

理化学研究所（理研）は、文部科学省と連携し、理研が開発主体となって開発・整備を推
進しているスーパーコンピュータ「富岳（ふがく）」を、開発・整備の途上であるものの、
国難ともいえる新型コロナウイルスの対策に貢献する成果をいち早く創出するために、可
可能な限り計算資源を関連研究開発に供出することとしました。

- ①新型コロナウイルスの性質を明らかにする課題
- ②新型コロナウイルスの治療薬となりえる物質を探索する課題
- ③新型コロナウイルス診断法や治療法を向上させようとする課題
- ④新型コロナウイルスの感染拡大及びその社会経済的影響を明らかにする課題
- ⑤その他、新型コロナウイルスの対策に資することが想定される課題

富岳 (Wikipedia)

兵庫県神戸市・ポートアイランドの理化学研究所計算科学研究センターに設置予定のス
ーパーコンピュータである。京の後継機として2014年に開発を開始し、2021年頃の運用
開始を予定していたが、COVID-19の対応に利用するため、1年早い2020年に開発・整備
に支障のない範囲で試行的な利用を開始する予定である。

富岳は京の約100倍の性能と、世界最高水準の実用性を目指している。

4月7日、理化学研究所は、整備中であり試行ではあるが、富岳をCOVID-19の性質の
解明、治療薬となりえる物質の探索などに利用する方針を発表した。

5月13日、富岳のすべての筐体の搬入が完了。